

疾患ナビ「マイコプラズマ肺炎」



マイコプラズマ肺炎とは、「肺炎マイコプラズマ」という微生物に感染して起きる肺炎のことです。主な感染経路は「飛沫感染」と「接触感染」です。肺炎というと高齢者の病気というイメージがあるかもしれませんが、マイコプラズマ肺炎は患者全体に占める 14 歳以下の割合が多く、意外にも若くて健康な人もかかります。1 年中見られる感染症ですが、晩秋から冬に患者数が増えます。

大正製薬株式会社〔本社：東京都豊島区 社長：上原 茂〕（以下、当社）が運用する健康情報サイト「大正健康ナビ（<https://www.taisho-kenko.com>）」では、専門医によるヘルスケアアドバイスを公開しています。

8 月 7 日に新着公開した「マイコプラズマ肺炎」では、黒木 春郎（くろき・はるお）先生に原因、症状、治療・対処法や予防法について詳しくお伺いしました。

◆新着情報 専門医によるヘルスケアアドバイス 疾患ナビ「マイコプラズマ肺炎」

<https://www.taisho-kenko.com/disease/633/>

<目次>

- ・マイコプラズマ肺炎の原因
- ・マイコプラズマ肺炎の症状
- ・マイコプラズマ肺炎の治療・対処法
- ・マイコプラズマ肺炎の予防法

マイコプラズマ肺炎の症状はしつこい咳が特徴です。まず、発熱や倦怠感、頭痛、のどの痛みなどの症状が出て、それらの諸症状が治まった頃に、乾いた咳が長く続きます。

マイコプラズマ肺炎の初期症状は、かぜととてもよく似ているため、見分けるのが難しいです。軽症で済むことが多い疾患ですが、適切な治療を受けないと咳が止まらずにつらい思いをしますので、咳が1週間以上続く場合は放置せずに受診をしましょう。

大正健康ナビは、生活者の日常生活に寄り添い、「人生 100 年時代をサポートする健康情報発信基地」として、みなさまの健康の維持・増進にお役立ていただけるサイト運営を目指しております。当社は、これからも健康と美を願う生活者に納得していただける優れた医薬品・健康関連商品、情報及びサービスを、社会から支持される方法で創造・提供することにより、社会へ貢献してまいります。

【監修者プロフィール】

こどもとおとなのクリニック パウルーム 院長

黒木 春郎（くろき・はるお）先生

千葉大学医学部卒業。医学博士。千葉大学医学部臨床教授。公認心理師。千葉大学医学部関連病院勤務を経て、1998 年千葉大学医学研究院小児病態学教官。2005 年外房こどもクリニック開業（千葉県いすみ市）を経て、08 年医療法人社団嗣業の会理事長、23 年より「図書室のなかのクリニック」をコンセプトにした、こどもとおとなのクリニック パウルームを東京都港区に開業。日本小児科学会専門医・指導医。日本感染症学会専門医・指導医・評議員。日本遠隔医療学会理事。著書に『駆け抜けた 17 年』（幻冬舎）、『プライマリケアで診る小児感染症 7 講』（中外医学社）、共著『最新感染症ガイド R-Book 2018-2021』（日本小児医事出版社）ほか多数。

■ご参考

●大正健康ナビ

<https://www.taisho-kenko.com>

大正健康ナビでは、お悩みの原因、症状、対策や予防法などをご紹介します。また、気になる症状をすぐにチェックできるコンテンツもご用意。いろいろな疑問に専門家が分かりやすくお答えしています。